

〔家畜衛生情報〕

細菌性肺炎予防ワクチンの接種を！！

(哺育・育成牛で心配される肺炎予防に)

(社)岡山県畜産協会・家畜衛生部

1. はじめに

哺育・育成牛で最も問題となっているカゼ・肺炎（いわゆる「牛呼吸器病症候群(Bovine Respiratory Disease Complex : BRDC)」と呼ばれている）は、ウイルスや細菌の混合感染により、下表に示した様なしくみで症状が悪化します。

また、治療により回復したと思われても、増体の遅れなどにより生産性に悪影響します。

とりわけ、素牛育成段階では重点的な対策が必要となる病気です。

2. BRDC の発生のしくみ I～IV期

期	発 生 し く み
I	移動、離乳、環境変化などのストレスを受け、ウイルスやマイコプラズマが容易に気道に侵入、定着、増殖します。 これにより、気道上皮が障害を受け、感染防御機能が低下します。
II	障害部位から上部気道常在菌であるパステラ菌やマンヘミア菌が侵入し、肺に定着、増殖します。
III	細菌、特にマンヘミア菌の放出する毒素(ロイコトキシン)により好中球、マクロファージなどの壊死が起こります。さらにこれから漏出したタンパク分解酵素により肺組織の損傷、炎症が進行します。
IV	肺組織は元に戻る事が出来ず(肝変換)、ガス交換が不可能となり斃死します。

3. 畜産協会ワクチン事業で新規対応

(社)岡山県畜産協会では今秋から「細菌3混不活化ワクチン」(マンヘミア・ヘモリティカ、パステラ・ムルトシダ、ヒストフィルス・ソムニ)＝商品名「キャトルバクト3」(京都微研)を予防注射事業の対象ワクチンにしました。

これまでに協会事業対象ワクチンとしてすでに取り扱いのある牛ウイルス性呼吸器病ワクチン(3種混、4種混、5種混、6種混)と、上記「細菌3種混不活化ワクチン」を併用して接種することで、哺育・育成期の呼吸器病、下痢症の発生予防に努め、死産事故や病傷事故の発生防止につなげていきたいと考えています。

4. 効果的な接種プログラム

(接種対象牛)

これからストレス環境下へおかれる牛

- 1 離乳前
- 2 移動前・移動直後(単飼育→群飼育)
- 3 導入前・導入直後
- 4 導入時にハイリスクと診断された牛等

(注射方法：3種混合ワクチン)

(添付の仕様書のとおりを使用して下さい)

